

富士宮市立大富士中学校



外観

1995(平成7)年に竣工した「富士宮市立大富士中学校」。市内においては、比較的新しい設立の学校ではあるが、築30年が経過し設備の老朽化が目立ってきたため、普通教室棟のトイレ改修を実施した。



生徒用トイレ 入口



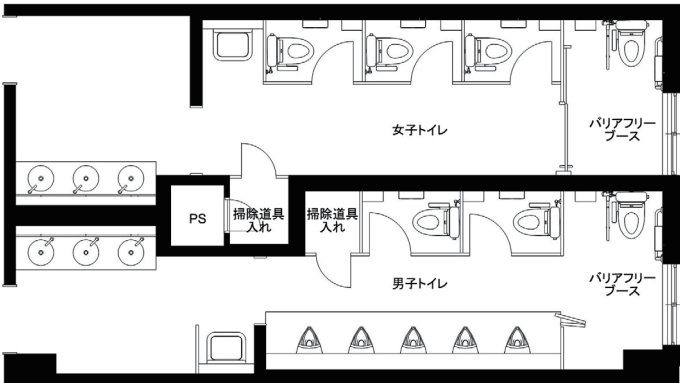
今回の改修では、和式便器が中心だった大便器の全洋式化を実施。さらに、床材もタイルからシート貼りに変更し、湿式清掃から乾式清掃に切り替えている。器具スペックや配慮面は、男子女子共通の仕様となっている。



生徒用トイレ
洗面コーナー

改修前はステンレスシンクに手動水栓が設置されていたが、改修を機に、非接触で手洗いができる自動水栓を採用した、カウンター式の洗面コーナーに生まれ変わった。

生徒用トイレ図面



水まわりの特長

改修の経緯

富士山の南側に広がる静岡県富士宮市。市街地中心部にある「富士宮市立富士宮第二中学校」の大規模校解消策として、富士宮市街地の北側に接する標高300～200mの場所に、1995(平成7)年「大富士中学校」が開校。市内では比較的新しい設立の市立中学校ではあるが、築30年が経過し、設備の老朽化も目立ってきたことから、このたび普通教室棟のトイレを改修した。富士宮市では、年間2件のペースで小中学校のトイレ改修工事などを順次実施。改修では、快適性向上のため、一般家庭と同様の仕様として、大便器をすべてウォシュレット付の洋式便器に変更。そのほか、校内のバリアフリー化に沿った改修を実施。同校では、今後体育館のトイレも改修が予定されている。

トイレの特長

大富士中学校では、改修前の大便器の多くが和式便器であったため、今回の工事でウォシュレットPを設置した洋式便器にすべて変更。ウォシュレットPは、きれいな除菌水によりノズルを自動で洗浄・除菌する機能が搭載されており、衛生的に使用ができる。また、器具スペックや配慮内容は男子女子共通とし、手荷物配慮として棚付二連紙巻器とは別に棚を設けるなど、生徒の使用シーンを見つめた細やかな配慮が施されている。さらに、洗面コーナーの水栓に自動水栓を採用。床材をタイルからシート貼りに変更し湿式清掃から乾式清掃に切り替えることで、トイレ全体の衛生性や清掃性を向上。生徒たちからは「サービスエリアみたい」「高級ホテルみたい」と高評価を得ている。



生徒用トイレ
小便器コーナー

床置き型だった小便器は、床の清掃性や節水性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器へと変更されている。



生徒用トイレ
小便器コーナー

清掃性への配慮として採用された壁掛型の自動洗浄小便器に加え、足元には、光触媒技術の抗菌・抗ウイルス効果で、においや汚れの発生を軽減する、ハイドロセラ・フロアPUを設置している。



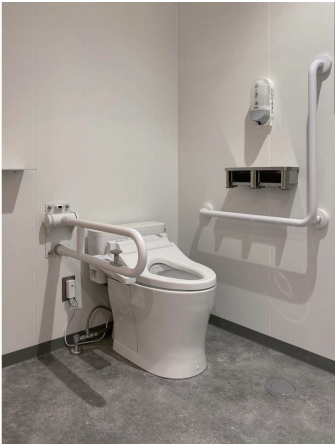
生徒用トイレ
大便器ブース

大便器は、タンク式と同じ給水口径15A配管でフラッシュバルブ式同様の連続洗浄ができる、パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。手荷物配慮として、棚付二連紙巻器のほかに棚も設置している。



生徒用トイレ
バリアフリーブース

最奥には、多様な生徒の利用に配慮してバリアフリーブースを配置。ブース寸法については、バリアフリー法の建築設計標準にある車いす使用者用簡易型便房の寸法を参考にしている。



生徒用トイレ
掃除流し・
掃除道具入れ

清掃は生徒が実施。掃除流しとは別に、掃除道具入れを設け、雑多になりがちな掃除道具が整理整頓しやすいように、モップ掛けパネルと小物収納パネルを採用している。



生徒用トイレ 改修前

改修前の大便器の多くは和式便器で、床・壁ともにタイル仕上げと、設備・空間ともに老朽化が見られた。清掃は、水を撒く湿式清掃をおこなっていた。



建築概要

名称	富士宮市立大富士中学校
所在地	静岡県富士宮市万野原新田4115-1
施主	富士宮市
設計	富士宮市都市整備部公共建築課
施工	建築 無双建設株式会社 設備 有限会社石川住設
竣工年月	(改修)2025年2月
敷地面積	29,365.00㎡
建築面積	3,557.18㎡
延床面積	8,820.28㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上3階
おもなTOTO使用機器	
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B	
ウォシュレットP:TCF588Y／棚付二連紙巻器:YH701	
自動洗浄小便器:UFS900R	
ハイドロセラ・フロアPU:AB680BR、AB690BR	
マーブライカウンター(陶器タイプ):ML50	
洗面器:L530／台付自動水栓:TLE28SS1A	